

令和 6 年度 自己評価および学校関係者評価書

令和 7 年 1 月 2 4 日
函館市立亀田小学校

1 本年度の重点教育目標

自分の考えをもち、豊かに表現し、高め合う子

2 本年度の取組の重点

- (1) 全ての子供の学びを保障するカリキュラム・マネジメント
- (2) 規範意識を育み、子供に寄り添う生徒指導
- (3) 命を大切にし、健康な心身を育む健康・安全指導
- (4) 豊かな心を育む道徳指導と望ましい人間関係を醸成する特別活動の充実
- (5) 多様なニーズに対応する特別支援教育
- (6) 子供と向き合う時間を確保する業務改善と働き方改革
- (7) 地域とともにある学校

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分 野	評価項目	自己評価結果		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善の方策の評価
①主体的に学ぶ力を育むカリキュラム・マネジメントの充実	○主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善に取り組む。※新しい学びの授業力向上推進事業連携校 ○個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る。	b	日常の授業の充実を図るために、一人一台端末の効果的な活用等の授業改善に取り組んできた。また、家庭学習の定着に向けて取り組み方の例を示すなど学力向上のための取組を推進した。全国学力・学習状況調査等の検査結果等を分析しながら子供の実態合わせ、さらに学力向上に努めていく。	A	A
②規範意識を育み、子供に寄り添う生徒指導	○支持的雰囲気のある、安心して生活できる学年・学級経営を推進する。 ○全教職員によるぶれない指導と温かい見守りを行う。 ○いじめ、不登校の未然防止・初期対応、継続的な自立支援の充実を図る。※不登校コーディネーターの配置	a	子供たちは全体的に落ち着いて学校生活を送っていた。職員間の情報の共有に努めるとともに、子供支援委員会を機動的に実施することで、組織的な生徒指導を進めることができた。いじめの積極的な認知を行い、早期発見・早期対応を行った。今後も関係機関とも連携しながら、生徒指導の充実を図る。	A	A
③命を大切にし、健康な心を育む健康・安全指導	○自らの生命を守る態度を育成する。 ○望ましい生活習慣の定着に向けた取組の充実を図る。 ○楽しく運動に取り組み、心身の健康の保持を図る。	a	安全や食育、病気の予防等について、授業をはじめ、あらゆる場面を通じて指導を続けてきた。人権教室を実施し、思いやりの心や生命の尊さについて学ぶ機会を充実させた。体力づくりでは、全学年で体力テストを実施したり、なわとび週間を設けたりするなどの取組を行った。今後も学校と家庭、地域が一体となって、命を大切にし、健康な心身を育むための指導を継続していく。	A	A
④豊かな心を育む道徳教育と望ましい人間関係を醸成する特別活動の充実	○「思いやり・自律・努力と強い意志」を育む道徳教育を推進する。 ○自主・自律、「ともにの精神」で協力する態度を育てる特別活動の充実を図る。	a	道徳を要として教育活動全体で、友達の良いところを認め合い、仲良く生活をするための指導を重ねてきた。今後もよりよい人とのかかわり方を身に付けられるように、子供の気持ちに寄り沿った指導に取り組んでいく。	A	A
⑤多様なニーズに対応する特別支援教育	○専門性を向上し、担任・保護者との相談体制の充実を図る。 ○ニーズに応じた機動的な支援体制の充実を図る。	a	特別支援学級及び通常学級の特別な支援を要する児童について、子ども支援委員会を中心に支援の方針・方策を検討し、情報を共有しなら関係機関とも連携して組織的に指導を行った。今後も、研修を重ねて教員の専門性を向上させながら、支援体制の充実を図っていく。	A	A
⑥子供と向き合う時間を確保する業務改善と働き方改革	○学校評価を活用した業務改善に取り組む。 ○ワークライフバランスを意識し、働き方改革を実践する。※自己研修の時間を生み出し、授業改善を進める。	a	I C Tを活用した校務の効率化や業務の平準化等に努め、時間外勤務時間の縮減が進んでいる。今後は、会議の持ち方の見直しやI C Tの効果的な活用を推進して時間を生み出し、教員が子供と向き合うための時間をより確保していく。	A	A
⑦地域とともにある学校	○積極的に情報を発信し、教育活動への理解と協力を得るとともに、信頼関係の構築に努める。 ○C Sを活用し、家庭・地域・外部機関との連携、協力により、教育活動の充実を図る。	b	町会のご協力による登下校の交通安全指導をはじめ、地域と連携した取組を行った。外部機関との連携により、外部講師の活用も多くなった。今後は、保護者や地域の人材がより積極的に教育活動に関われるような体制づくりや教育内容の見直しに努めていく。	A	A

■ 自己評価達成状況

a	ほぼ達成できた (8 割以上)
b	概ね達成できた (6 割以上)
c	十分ではない (4 割以上)
d	達成できなかった (4 割未満)

■ 自己評価の適切さ及び改善の方策の適切さにかかる評価

A	自己評価及び改善策は適切であり、取組を進めるべきである。
B	自己評価及び改善策は適切であるが、若干の修正は必要である。
C	自己評価及び改善策の方向性はよいが、若干の修正が必要である。
D	自己評価及び改善策を再度検討する必要がある。